

心理学

| 授業科目名 | 授業題目 | 単位数 | 担当教員氏名 | 開講 セメスター | 曜日 講時 |
|----------------------|----------------|-----|--|-------------|---------------|
| 実験心理学概論(心理学概論) | 心理学概論 | 2 | 阿部 恒之 | 3 | 水曜2限 |
| 実験心理学概論(心理学概論) | 心理学概論 | 2 | 河地 庸介 | 4 | 水曜4限 |
| 社会心理学概論(社会・集団・家族心理学) | 社会・集団・家族心理学 | 2 | 辻本 昌弘 | 3 | 木曜1限 |
| 社会心理学概論(社会・集団・家族心理学) | 社会・集団・家族心理学 | 2 | 荒井 崇史 | 4 | 金曜3限 |
| 心理学実験 | 心理学実験 | 2 | 河地 庸介、阿部 恒之、坂井 信之、辻本 昌弘、荒井 崇史、RAEVSKIY ALEXANDER | 4 | 火曜3限、 火曜4限 |
| 心理学研究法 | 心理学研究法 | 2 | 河地 庸介、阿部 恒之、坂井 信之、辻本 昌弘、荒井 崇史、RAEVSKIY ALEXANDER | 3 | 火曜3限、 火曜4限 |
| 心理学各論Ⅰ | 犯罪心理学:日本と台湾の比較 | 2 | 戴 伸峰 | 5 | 集中講義 |
| 心理学各論Ⅱ | ウェルビーイングの心理学 | 2 | WIWATTANAPANT UWONG JUTHATIP | 6 | 木曜3限 |
| 実験心理学各論(知覚・認知心理学) | 知覚・認知心理学 | 2 | 河地 庸介 | 5 | 水曜4限 |
| 実験心理学各論(感情・人格心理学) | 感情・人格心理学 | 2 | 阿部 恒之 | 5 | 水曜1限 |
| 実験心理学各論(神経・生理心理学) | 神経・生理心理学 | 2 | 坂井 信之 | 6 | 水曜3限 |
| 実験心理学各論(心理学統計法) | 心理調査概論 | 2 | 倉元 直樹 | 5 | 月曜2限 |
| 社会心理学各論(文化心理学) | 文化心理学 | 2 | 辻本 昌弘 | 6 | 金曜2限 |
| 社会心理学各論(司法・犯罪心理学) | 司法・犯罪心理学 | 2 | 荒井 崇史 | 5 | 金曜3限 |

心理学

| | | | | | |
|----------|---------------|---|-------------------------------|---|-----------|
| 実験心理学演習Ⅰ | 知覚・認知・感性科学の展開 | 2 | 河地 庸介 | 6 | 水曜2限 |
| 実験心理学演習Ⅱ | 感情の社会的機能 | 2 | 阿部 恒之 | 6 | 水曜1限 |
| 実験心理学演習Ⅲ | 神経・生理心理学の文献研究 | 2 | 坂井 信之 | 5 | 水曜3限 |
| 実験心理学演習Ⅳ | 心理測定的基础 | 2 | 倉元 直樹 | 6 | 月曜2限 |
| 社会心理学演習Ⅰ | 犯罪・非行と心理学 | 2 | 荒井 崇史 | 6 | 木曜2限 |
| 社会心理学演習Ⅱ | コミュニティと社会行動 | 2 | 辻本 昌弘 | 5 | 金曜2限 |
| 心理学特殊実験Ⅰ | 心理学特殊実験Ⅰ | 2 | 辻本 昌弘、阿部 恒之、坂井 信之、荒井 崇史、河地 庸介 | 5 | 火曜3限、火曜4限 |
| 心理学特殊実験Ⅱ | 心理学特殊実験Ⅱ | 2 | 辻本 昌弘、阿部 恒之、坂井 信之、荒井 崇史、河地 庸介 | 6 | 火曜3限、火曜4限 |

科目名：実験心理学概論（心理学概論）

曜日・講時：水曜 2 限

semester：3 単位数：2

担当教員：阿部 恒之

コード：LB33202, 科目ナンバリング：LHM-PSY206J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：心理学概論

2・授業の目的と概要：心理学の幅広い領域を講義し、心理学の基礎を概観する。

適宜、実験や調査への協力を呼びかけるので、それに参加して実際の心理学研究に触れてもらう。

キーワード：心理学史、学習、知覚、社会心理学、応用心理学

3. 学習の到達目標：心理学の成り立ちや、人の心の基本的な仕組み・働きを中心に、心理学に関する広範な視点を身に着ける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は対面で実施する。但し、オンデマンドビデオなどのリモート素材も活用する。

資料提供や小レポートの提出、連絡などはClassroomを通じて行う。Classroomのクラスコードは教務係から通知されるので、それに基づいて必ず登録すること。

内容梗概を以下に示すが、教科書「心理学の視点 25」の章立てに基づいて講義を行う。詳細は初回授業で説明する。

- 1 回目 心理学と諸科学
- 2 回目 心理学の歴史：ヴント以前の心理学
- 3 回目 心理学の歴史：科学的心理学の成立と展開
- 4 回目 心理学の歴史：計算機科学と脳科学の影響
- 5 回目 心理学の諸分野：系統発生的基盤
- 6 回目 心理学の諸分野：個体発生的基盤
- 7 回目 心理学の諸分野：認知的基盤
- 8 回目 心理学の諸分野：言語的基盤
- 9 回目 心理学の諸分野：社会的基盤
- 10 回目 心理学の諸分野：制度的基盤
- 11 回目 心理学の諸分野：文化的基盤
- 12 回目 心理学の諸分野：適応的基盤
- 14 回目 心理学の諸分野：個人的基盤
- 15 回目 まとめ

5. 成績評価方法：期末レポート（10%）*、小レポート（50%）*、実験調査への参加と出席**等の平常点（40%）。

上記の合計得点を踏まえて総合的に評価する。

*期末レポートと毎回の小レポートについては、もれなく提出した者のみ単位認定対象とする。

**2/3 以上出席した者のみ単位認定対象とする。

6. 教科書および参考書：教科書：『心理学の視点 25』（東北大学文学部心理学研究室（編）、国際文献社） ISBN978-4-910603-04-9

授業中に輪読するので必携のこと。

7. 授業時間外学習：テキストの予習・復習を十分に行うこと。また、授業で修得した心理学的視点で日常生活を眺める習慣をつけ、理論と生活を結びつけて欲しい。

実験・調査の多くは時間外学修として実施するので、必ず参加すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

小レポート等、全ての提出物は受講生全員で共有して、互いに参考にすることがある。これを前提に作成すること。

コンピュータの持参を推奨する。なお、出席は授業時に投影する QR コードから申請してもらうので、スマートホンを保有している場合は持参のこと。

科目名：実験心理学概論（心理学概論）

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：河地 庸介

コード：LB43403, 科目ナンバリング：LHM-PSY206J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：心理学概論

2・授業の目的と概要：心理学は心の仕組み、働き方を実証的に調べていく学問領域である。とはいえ心は目に見えるわけでもなければ、聴くことも、触ることもできない。それにもかかわらず心理学が現在に至るまで発展してきたのは、先人らが巧妙に計画した実証的研究によって心を詳らかにしてきたからである。本講義では、心の諸相について実際の具体的な研究例を紹介しながら幅広く体系的に学習していく。

3. 学習の到達目標：具体的な研究例をもとに基本的な心の仕組み、働きを学び、近年様々なメディアで取りあげられている心理学に関する話題を理解・評価できる力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業資料と授業情報についてはClassroom を使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. ガイダンス：(実験) 心理学とは
2. 心の学問の成り立ち 1
3. 心の学問の成り立ち 2
4. 世界を感じる心の基本特性（閾値・順応・恒常性など）
5. 感覚・知覚 1
6. 感覚・知覚 2
7. 感覚・知覚 3
8. 記憶・忘却とその障害
9. 学習
10. 問題解決・推論
11. 感情 1
12. 感情 2
13. パーソナリティ
14. 発達
15. まとめと試験

5. 成績評価方法：レポート（40%）およびクイズを含むコメントシートの提出（60%）をもとに評価する。

6. 教科書および参考書：教科書：『心理学の視点 25』（東北大学文学部心理学研究室（編），国際文献社） ISBN 978-4-910603-04-9

7. 授業時間外学習：講義内で提示されるキーワードや重要研究について，論文・書籍・URL などを通して理解を深めること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）

曜日・講時：木曜 1 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LB34101, 科目ナンバリング：LHM-PSY207J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：社会・集団・家族心理学

2. 授業の目的と概要：2者関係から社会全体までさまざまなレベルの集団や集合体を視野に入れて人間の社会性を論じる。授業では社会心理学の理論モデルや研究例を、日常の具体的現象に関連づけながら解説していく。

3. 学習の到達目標：社会、集団、家族に関する社会心理学の代表的な理論モデルと研究例を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 人間の社会性
2. 社会的影響
3. 服従と抵抗
4. 集合行動①
5. 集合行動②
6. 相互依存関係
7. 社会的ジレンマ
8. 規範・信頼・家族
9. 集団のパフォーマンス
10. 集団の意思決定
11. 集団間関係
12. リーダーシップ
13. 文化と心
14. 社会的自己
15. まとめ

5. 成績評価方法：毎回実施する小テスト（100%）

6. 教科書および参考書：教科書『社会・集団・家族心理学』（サイエンス社，ISBN978-4-7819-1656-9）
必要に応じて資料等も配布する

7. 授業時間外学習：各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえておこないます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要です。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

履修希望者が教室定員を超過する場合には、他学部生の履修を制限することがあります。学習の一環として心理学の実験・調査への参加を要望することがあります。

科目名：社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）

曜日・講時：金曜 3 限

semester：4 単位数：2

担当教員：荒井 崇史

コード：LB45303, **科目ナンバリング：**LHM-PSY207J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：社会・集団・家族心理学

2・授業の目的と概要：本授業では、社会心理学における基礎的なトピックス（社会的認知、態度、対人関係・対人行動、集団的相互作用、家族の機能等）についての知識を深めることを目的とする。授業では、各トピックスの基礎知識及び最新の研究を講義形式で紹介する。

3. 学習の到達目標：社会的認知、態度、対人魅力、援助行動、攻撃行動、集団の影響、家族の機能等、本授業で取り上げるトピックスに関する社会心理学的理論を理解し、説明することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面授業を実施します。授業にあたって、この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業の開始前に、必ず Google Classroom にアクセスし、クラスに参加してください。

1. 全体ガイダンス：社会心理学の概説
2. 対人認知の歪み
3. 原因帰属
4. 態度とは何か？
5. 態度変容
6. 説得的コミュニケーション
7. ステレオタイプと偏見
8. 対人関係の形成
9. 対人関係の発展
10. 対人魅力
11. 言語的コミュニケーション
12. 非言語的コミュニケーション
13. 攻撃行動
14. 援助行動と援助要請
15. 家族の人間関係

5. 成績評価方法：最終試験／レポート 60%

受講態度 40%（授業内課題 20%、その他 20%）

※やむを得ない事情（忌引き・病気等）で欠席した場合には、その根拠資料（診断書等）を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

6. 教科書および参考書：教科書は指定しない。ただし、参考書を講義中に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習：初回の授業で紹介する参考文献を、予習として早いうちに通読することを求める。また、各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進める。したがって、各回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要となる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：心理学実験

曜日・講時：火曜 3 限、火曜 4 限

semester：4 単位数：2

担当教員：河地 庸介、阿部 恒之、坂井 信之、辻本 昌弘、荒井 崇史、RAEVSKIY ALEXANDER

コード：LB42310, 科目ナンバリング：LHM-PSY208J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：心理学実験

2・授業の目的と概要：心理学では現象の解明のために、実験・調査・面接・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習メニューは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。

3. 学習の到達目標：種々の心理学研究法の基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。

ただし、状況に応じてオンライン・オンデマンド授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. オリエンテーション
2. 感情の測定（ポリグラフィー）
3. 心理物理学的測定法
4. 信号検出理論
5. 一対比較法
6. 幾何学的錯視
7. 感覚の尺度化
8. 反応時間
9. ゲーム理論に基づく実験
10. 心理学の応用 1（市場調査）
11. 心理学の応用 2（裁判所）
12. 脳機能の計測法（NIRS）
13. 潜在的態度の測定
14. 官能評価法とその応用
15. まとめ

5. 成績評価方法：レポート [60%], 出席 [40%]

6. 教科書および参考書：Google Classroomにて指示する。

7. 授業時間外学習：毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

履修は原則として心理学専修の2年次学生に限る。

前期の心理学研究法と連続履修すること。

科目名：心理学研究法

曜日・講時：火曜 3 限、火曜 4 限

semester：3 単位数：2

担当教員：河地 庸介、阿部 恒之、坂井 信之、辻本 昌弘、荒井 崇史、RAEVSKIY ALEXANDER

コード：LB32308, 科目ナンバリング：LHM-PSY209J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：心理学研究法

2・授業の目的と概要：心理学では現象の解明のために、実験・調査・面接・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習テーマは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。なお、以下の授業計画は担当者の都合などによる変更の可能性がある。

3. 学習の到達目標：種々の心理学研究法の基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。

ただし、状況に応じてオンライン・オンデマンド授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. オリエンテーション
2. 研究倫理
3. 観察法・フィールドワーク
4. 文献検索・レポート作成法
5. 実験法 1 (基礎)
6. 面接法
7. 質問紙法 (作成と実施)
8. 実験法 2 (動物実験)
9. 心理統計の基礎
10. 心理統計解析法
11. 心理統計解析実習
12. 質問紙法 (実施後の処理)
13. 心理検査法
14. コンピュータによる刺激制御法
15. まとめ

5. 成績評価方法：レポート [60%], 出席 [40%]

6. 教科書および参考書：Google Classroomにて指示する。

7. 授業時間外学習：毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

履修は原則として心理学専修の2年次学生に限る。

後期の心理学実験と連続履修すること。

科目名：心理学各論 I

曜日・講時：集中講義

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：戴 伸峰

コード：LB98818, **科目ナンバリング：**LHM-PSY326J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：犯罪心理学：日本と台湾の比較

2・授業の目的と概要：犯罪心理学は犯罪および犯罪者について研究する心理学の一分野である。 犯行当時の心理状態、犯罪者の性格、罪を犯す発達の経緯などをはじめ、証言の心理などを研究する裁判心理学や、犯罪者の矯正・更生・犯罪予防を目的とする矯正心理学を含むことである。本講義では、犯罪心理学の紹介をはじめに、心理学の観点から犯罪現象や事例を分析することから成る。また、担任講師は台湾籍であり、日本と台湾の犯罪心理学の現状を紹介し、それぞれの特徴を比較することは講義の目的である。

3. 学習の到達目標：犯罪心理学の観点から、犯罪事情や事例を分析し、実証的な観点から犯罪を理解する力を育成することである。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は基本的には Google Meet によるオンライン遠隔授業中心のハイブリッド方式で実施する。なお、授業資料と授業情報については Classroom を使用して発信する。内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. 現代日本の犯罪動向
2. 現代台湾の犯罪動向
3. 日本統治時代が台湾の犯罪や法律に及ぼす影響
4. 犯罪原因の科学的研究 1
5. 犯罪原因の科学的研究 2
6. 犯罪の社会的要因 1
7. 犯罪の社会的要因 2
8. 犯罪の社会的要因 3
9. 犯罪の個人的要因 1
10. 犯罪の個人的要因 2
11. 犯罪の発達の要因 1
12. 犯罪の発達の要因 2
13. 犯罪原因の統合的理解 1
14. 犯罪原因の統合的理解 2
15. まとめとレポート提出

5. 成績評価方法：犯罪心理学（事例の分析、講義に関する心得など）に関する期末レポート（100%）

6. 教科書および参考書：参考用の教科書：

犯罪心理学—犯罪の原因をどこに求めるか 大淵憲一 培風館

7. 授業時間外学習：犯罪事情や事例に積極的に関心を持つこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：心理学各論Ⅱ

曜日・講時：木曜 3 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：WIWATTANAPANTUWONG JUTHATIP

コード：LB64301, 科目ナンバリング：LHM-PSY327J, 使用言語：日本語・英語

1. 授業題目：ウェルビーイングの心理学

2・授業の目的と概要：1946年の世界保健機関（WHO）憲章の草案の中で、「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態（well-being）であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と定義されている（厚生労働省）。本講義では、「ウェルビーイング」の概念を紹介し、様々な観点を紹介する。講義の後半は自然災害や感染症が広まった「非常時」のウェルビーイング研究について論ずる。

3. 学習の到達目標：1. 受講者は、ウェルビーイングの定義、測定方法及び、他の心理学概念との関連を説明することができる。
2. 受講者は、自然災害やコロナ感染症などの「非常時」と「平常時」のウェルビーイングの変化を見分けることができる。
3. 受講者は、ウェルビーイングの概要を考察し、現在注目されている問題との関連を把握できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この講義は Zoom を介してタイと日本をつなぐオンライン講義である。授業に関する各種情報は文学部・文学研究科の HP 等でお知らせするので、各自確認いただきたい。

1. ウェルビーイングの定義とその使い方
2. ヘドニック・ウェルビーイングとユーダイモニック・ウェルビーイング
3. ポジティブ心理学
4. ライフステージ別ウェルビーイング
5. 心理学的介入
6. ウェルビーイングの文化的差異
7. 多様性、公平性、インクルージョン
8. 災害心理学とウェルビーイングの導入
9. 災害時および災害後の人間の反応 1
10. 災害時および災害後の人間の反応 2
11. 災害時における逸脱行動
12. 災害時の向社会的行為、絆、および災害文化
13. 災害時における心理的支援
14. リスク認知と防災準備
15. 気候変動の心理的影響

5. 成績評価方法：レポート 70%

受講態度 30%（授業内での議論への参加度）

※やむを得ない事情（忌引き・病気等）で欠席した場合には、その根拠資料（診断書等）を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

6. 教科書および参考書：なし

7. 授業時間外学習：各回の授業内容について、事前に予習を行い、その内容を把握しておくこと。また、その内容に関する議論に耐えうるだけの知識を身につけておくこと。事前の予習は、教科書や配布する資料等を参考にするとともに、各回の授業内容と関連する文献を読んでおくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：実験心理学各論（知覚・認知心理学）

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：河地 庸介

コード：LB53401, 科目ナンバリング：LHM-PSY312J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：知覚・認知心理学

2・授業の目的と概要：人間は、意識的かどうかにかかわらず、外界の事物や自分や他者の状態等の多種多様な情報を認識し、行動を選択し、外界や他者に働きかけながら生活している。本講義では、このような情報のやりとりを支える感覚・知覚・注意・記憶・思考といった「こころ」の様々な機能を幅広く理解し、さらにはそれらの機能を実現する脳内メカニズムを理解することを目指す。適宜、錯覚等のデモンストレーションや心理学実験の実体験に加えて、最新の脳科学的知見や話題を織り交ぜながら講義を進めていく。

3. 学習の到達目標：日常生活の中で体験する自分自身や他者の「こころ」にかかわる現象を認知心理学の立場から考察し、近年様々なメディアで取りあげられている心理学や脳科学に関する話題を理解・評価できる力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. ガイダンス
2. 知覚・認知心理学で用いる心の測り方
3. 世界を感じるための心の基本特性
4. 初期視覚情報処理 1（網膜・受容野）
5. 初期視覚情報処理 2（コントラスト・空間周波数処理）
6. 初期視覚情報処理 3（色・運動・奥行き知覚）
7. 中期視覚情報処理（図地の知覚, 群化）
8. 高次視覚情報処理（物体・顔・シーンの知覚）
9. 聴覚・触覚情報処理
10. 多感覚統合：複数感覚の情報をいかにしてまとめ上げるのか
11. 注意：注意とは何か、如何にして測定するのか
12. 様々な注意：注意はどこに向けられるのか
13. 心的イメージ
14. 意思決定
15. まとめ

5. 成績評価方法：試験もしくはレポート（60%）およびコメントシートの提出（40%）をもとに評価する。

6. 教科書および参考書：必要に応じて PDF ファイルを配布する。

7. 授業時間外学習：講義内で提示されるキーワードや重要研究について、論文・書籍・URL などを通して理解を深めること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：実験心理学各論（感情・人格心理学）

曜日・講時：水曜 1 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：阿部 恒之

コード：LB53101, 科目ナンバリング：LHM-PSY313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：感情・人格心理学

2・授業の目的と概要：具体的な研究事例に触れながら，感情と人格について総合的に学ぶ。

なお，本科目は公認心理師必修科目「感情・人格心理学」に対応している。

キーワード： ジェームズ-ランゲ説・キャノン-バード説・ストレス・交感神経-副腎髄質系・HPA 系・自尊心・自意識

3. 学習の到達目標：感情と人格について以下のことを学び，日常生活における機能と影響を理解する。

- ①感情に関する理論及び感情喚起の機序
- ②感情が行動に及ぼす影響
- ③人格の概念及び形成過程
- ④人格の類型、特性 等

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は対面で実施する。但し，オンデマンドビデオなどのリモート素材も活用する。

資料提供や小レポートの提出，連絡などはClassroomを通じて行う。Classroomのクラスコードは教務係から通知されるので，それに基づいて必ず登録すること。

主な内容は以下の通り。但し，講義順序は，別途指示するテキストの内容に沿い，講読を中心に進め，投影で要点を押さえる。詳細はガイダンスで伝える。

- ① ガイダンス，感情の基礎
- ② 感情の生物学的基盤
- ③ 感情の理論 1 古典的理論
- ④ 感情の理論 2 基本的感情説と次元説
- ⑤ 感情の理論 3 身体性を巡る理論の整理
- ⑥ 感情と行動
- ⑦ 感情の測定
- ⑧ 援助行動と共感性
- ⑨ 感情の制御・調整
- ⑩ 人格の概念
- ⑪ 知的機能の個人差
- ⑫ 人格の形成と変容
- ⑬ 人格の理論
- ⑭ 自尊心と自意識
- ⑮ 人格の障害

5. 成績評価方法：期末レポート*（20%），毎回の小レポート*（60%），出席**と討議への参加（20%）。

上記の合計得点を踏まえて総合的に評価する。

*期末レポートと毎回の小レポートについては，もれなく提出した者のみ単位認定対象とする。

**2/3以上出席した者のみ単位認定対象とする。

6. 教科書および参考書：教科書：ストレスと化粧の社会生理心理学

阿部恒之（著）＜WEB書籍＞

2025年株式会社センキョウ発行 定価 1000円＋税

ISBN978-4-9913466-0-6

以下 URL より購入申請の上，郵便振替で購入のこと（振込み料は不要）。

https://docs.google.com/forms/d/1pb7U9TxxhYGnkR6nRK19xiQFeNPL9ikzdYSi_BZ50K5s/edit?ts=67613ed5

*この書籍はフレグランスジャーナル社から発行されていたが，同社が2023年9月をもって

7. 授業時間外学習：毎回小レポートを課すので，それを通じて復習すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

小レポート等，全ての提出物は受講生全員で共有して，互いに参考にする場合がある。これを前提に作成すること。

WEB 書籍の教科書の講読など，コンピュータを使うので持参すること。

科目名：実験心理学各論（神経・生理心理学）

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：坂井 信之

コード：LB63306, 科目ナンバリング：LHM-PSY314J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：神経・生理心理学

2・授業の目的と概要：この授業では、人間の「脳神経系の構造および機能」、「記憶、感情等の生理学的反応の機序」および「高次脳機能障害」のそれぞれ概要について理解することを目的とする。

3. 学習の到達目標：ヒトの認知機能がどのような仕組みで支えられているかについて理解することができるようになる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は主に教員がスライドを使いながら解説する形式である。進度の予定は以下の通り。

- 第1回 日常生活を支える脳の仕組み
- 第2回 脳と神経の成り立ち：脳と自律神経系を中心に
- 第3回 神経系の情報伝達とその柔軟性：シナプスと神経伝達物質
- 第4回 大脳皮質の機能局在：前方は運動、後方は知覚
- 第5回 脳を測る：電気信号と化学信号
- 第6回 経験に基づく脳の変化
- 第7回 人の知情意を司る脳
- 第8回 ものを見るのは目か脳か？
- 第9回 手を動かしているのは筋肉か脳か？
- 第10回 記憶は脳のどこにどのような形で蓄えられるか？
- 第11回 怒りを感じるのは脳のどこか？
- 第12回 お腹が空く理由は？
- 第13回 脳が変わると行動や心はどのように変わるのか？
- 第14回 記憶を失った青年の話
- 第15回 心の病気＝脳の病気

5. 成績評価方法：定期試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）

6. 教科書および参考書：授業中に適宜資料を配布・紹介する。

7. 授業時間外学習：毎回の授業前後に小レポートを課するので、授業内容を予習・復習しながら、そのレポートに回答する必要がある。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

この授業は原則として対面にて実施する。詳細は Classroom で通知する予定である。

なお、復習と次週の予習のため、小レポートへの回答が必須であり、小レポートへの回答は 90 分程度必要となることを予め理解しておくこと。

科目名：実験心理学各論（心理学統計法）

曜日・講時：月曜 2 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：倉元 直樹

コード：LB51205, 科目ナンバリング：LHM-PSY315J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：心理調査概論

2・授業の目的と概要：主として計量的な心理学の方法論として幅広く使われている質問紙法や検査法，記述式のテスト，小論文，面接試験等，主観的な評価を伴う測定法を用いた尺度を開発・自作する際の技術に関わる理論的背景について学ぶ。同時に，心理検査等，心理学的測定に関わる結果を評価するための理論について，その基礎的な概念を学ぶ。信頼性，妥当性といった概念の基礎となる古典的テスト理論とその発展形である一般可能性理論，さらに探索的因子分析を中心に測定法の基礎を学ぶ。

3. 学習の到達目標：調査法の背景にある測定理論の基礎的な理解と論文によく用いられる指標に関するリテラシー。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態： 3 対面授業（半分以上）とオンデマンド型オンライン授業の併用

1. イントロダクション（テーマ、および、教科書の紹介）（1 コマ）
2. 古典的テスト理論の基礎（測定の定義、信頼性と妥当性、測定誤差、妥当性の諸概念、妥当性と信頼性、信頼性のモデル、共分散、標準化、相関係数、信頼性係数の定義、平行測定、信頼性係数の意味、並行測定と信頼性係数の推定、妥当性係数、信頼性と妥当性の関係、スピアマン＝ブラウンの公式）（4～7 コマ）
3. 信頼性の評価（再テスト法、平行テスト法、折半法、評定法による信頼性向上の原理、スピアマン＝ブラウンの公式の一般化、 α 信頼性係数とその意味、内的整合性と測定誤差の仮定、KR 20、内容的妥当性と測定モデル、信頼性と妥当性のジレンマ、一般化可能性理論）（4～6 コマ）
4. 探索的因子分析（因子分析の基礎概念、単純構造と尺度の分類、因子軸の回転、因子分析モデルと古典的テスト理論、因子負荷量、因子得点、相関係数の構造、共通性と信頼性係数、主成分分析と因子分析、固有値と因子、探索的因子分析の手順）（3～5 コマ）
5. 心理尺度作成の実際（心理学的構成概念の構築、下位概念の整理、項目の作成、ワーディング、データ収集、テスト法と調査法、項目分析の方法、通過率と IT 相関）（1～2 コマ）
6. 期末考査（1 コマ）

5. 成績評価方法：出席 [40%程度]・討論参加 [20%程度]・期末試験 [40%程度]

毎回対面授業を予定している。どのような理由でも欠けは認めない。ただし、やむを得ない理由で出席できない場合には、求めに応じて授業動画を提供する場合がある。その視聴をもって当該授業への出席と認める。

6. 教科書および参考書：(1) E. G. カーマイン・R. A. ツェラー著（1983）『テストの信頼性と妥当性』，朝倉書店
(2) 海保博之編著（1984）「心理・教育データの解析法 10 講 基礎編」，福村出版

7. 授業時間外学習：授業時間外に予習、復習を奨励する。小テストを行う場合がある。受講者の理解度に応じて指定外の参考書を利用する場合がある。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：社会心理学各論（文化心理学）

曜日・講時：金曜 2 限

semester：6 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LB65204, 科目ナンバリング：LHM-PSY316J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：文化心理学

2・授業の目的と概要：文化により人間の行動や心理にどのような違いがみられるのだろうか。文化による違いはなぜ生じるのだろうか。異なる文化に接触したとき人間に何が生じるのだろうか。これらの問いを念頭に、この授業では、文化を研究主題にして成果をあげている心理学の理論と研究例を解説する。

3. 学習の到達目標：文化心理学の代表的な理論モデルと具体的な研究例を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文化心理学とは
2. 生まれか育ちか
3. 心と文化
4. 日本文化論
5. 東洋と西洋の比較
6. 文化と自己
7. 進化と適応
8. 生態環境と文化
9. 適応論による文化研究
10. 移民の異文化体験
11. 文化変容の理論
12. 国民国家と文化
13. 多文化主義
14. 異文化の理解
15. まとめ

5. 成績評価方法：小テスト（50%），期末レポート（50%）

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。授業中に適宜、参考書を紹介する。

7. 授業時間外学習：各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえておこないます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要です。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

学習の一環として心理学の実験・調査への参加を要望することがある。

科目名：社会心理学各論（司法・犯罪心理学）

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：荒井 崇史

コード：LB55302, 科目ナンバリング：LHM-PSY317J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：司法・犯罪心理学

2・授業の目的と概要：本授業では、犯罪心理学の学問的位置づけ、刑事司法制度や犯罪統計など犯罪心理学を学ぶ上で基礎的な知識、犯罪原因に関する基礎理論、そして司法・犯罪分野における心理学的アセスメントや援助についての知識を深めることを目的とする。授業では、各トピックスの基礎知識及び最新の研究を講義形式で説明する。

3. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、以下の3点である。

- (1) 司法・犯罪分野の制度や法律、各機関における活動や活動倫理を理解する。
- (2) 犯罪原因論や犯罪機会論の視点から犯罪や非行の原因を理解する。
- (3) 司法・犯罪分野における心理学的アセスメントや心理学的援助の概要を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面授業を行います。授業にあたって、この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業の開始前に、必ず Google Classroom にアクセスし、クラスに参加してください。

授業内容とスケジュールは以下の通りですが、進度によって変更する場合があります。

1. 全体ガイダンス：犯罪と犯罪心理学
2. 司法・犯罪に関連する法律
3. 成人における刑事司法制度
4. 少年非行と司法システム
5. 犯罪統計
6. 犯罪・非行の生物学的原因（1）
7. 犯罪・非行の生物学的原因（2）
8. 犯罪・非行の心理学的原因（1）
9. 犯罪・非行の心理学的原因（2）
10. 犯罪・非行の社会学的原因（1）
11. 犯罪・非行の社会学的原因（2）
12. 環境と犯罪に関する理論
13. 犯罪予防
14. 犯罪・非行の心理学的アセスメントと支援
15. 本授業の総括と知識確認

5. 成績評価方法：期末試験・レポート 60%

受講態度 40%（授業内課題 20%, その他 20%）

※やむを得ない事情（忌引き・病気等）で欠席した場合には、その根拠資料（診断書等）を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

6. 教科書および参考書：以下の書籍を教科書とする。また、参考書を講義中に適宜紹介する。

森丈弓 他（2021）司法・犯罪心理学 サイエンス社

7. 授業時間外学習：初回の授業で紹介する参考文献を、予習として早いうちに通読することを求める。また、各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進める。したがって、各回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要となる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：実験心理学演習 I

曜日・講時：水曜 2 限

semester：6 単位数：2

担当教員：河地 庸介

コード：LB63205, 科目ナンバリング：LHM-PSY318J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：知覚・認知・感性科学の展開

2・授業の目的と概要：本演習では、実験心理学研究論文を取り上げ、①研究背景から研究仮説の導出、②仮説検証のための研究方法の選択、③適切なデータ処理、④研究仮説と結果との違いに基づいて述べられる考察の理解、に着目して話題提供・討論を行う。さらには、⑤取り上げた研究の新規性についても討論を行う。演習で扱うテーマは知覚・認知・感性が基本となる。

3. 学習の到達目標：①自分自身の問題意識や関心に基づいて、研究論文を選び出し、必要な情報を読み取ることができることを目指す。

②仮説検証方法の妥当性を評価できるようになること。

②先行研究との比較の中で、当該研究の意義・新規性を評価できるようになること。

③新たな研究課題を見つけることができるようになること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。ただし、状況に応じてオンライン授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. ガイダンス (演習の進め方)
2. 話題提供・解説・討論
3. 話題提供・解説・討論
4. 話題提供・解説・討論
5. 話題提供・解説・討論
6. 話題提供・解説・討論
7. 話題提供・解説・討論
8. 話題提供・解説・討論
9. 話題提供・解説・討論
10. 話題提供・解説・討論
11. 話題提供・解説・討論
12. 話題提供・解説・討論
13. 話題提供・解説・討論
14. 話題提供・解説・討論
15. 話題提供・解説・討論

5. 成績評価方法：発表 (50%)、討論への参加 (50%) をもとに評価する。

6. 教科書および参考書：授業で用いる論文について指示する。もしくは PDF ファイルの配布を行う。

7. 授業時間外学習：授業内で扱う研究論文を通読しておくことが必要である。適宜、授業内で提示されるキーワードや重要研究について、論文・書籍・URL などを通して理解を深めることが望ましい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：実験心理学演習Ⅱ

曜日・講時：水曜 1 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：阿部 恒之

コード：LB63101, 科目ナンバリング：LHM-PSY319J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：感情の社会的機能

2・授業の目的と概要：この授業では、感情心理学・生理心理学に関する論文を読み、その内容を発表し、全員で議論する。講読する論文は、基本感情、CAD 三幅対仮説、道徳基盤理論などであり、順次関連付けながら進行する。そして、差別問題に感情がどのように関わっているかを考え、基礎研究と社会問題がいかに密接なつながりを持っているかを理解する。
キーワード：基本感情、嫌悪、CAD 三幅対仮説、道徳基盤理論、差別、行動免疫システム

3. 学習の到達目標：アクティブラーニングを通じて、心と体、さらには社会と関わる心理学について定見を得る。また、人前で発表することに慣れるとともに、発表スキルを磨く。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は対面で実施する。但し、オンデマンドビデオなどのリモート素材も活用する。資料提供や小レポートの提出、連絡などは Classroom を通じて行う。Classroom のクラスコードは教務係から通知されるので、それに基づいて必ず登録すること。

以下のように講義を進めるが、実情に合わせて変更する。変更したスケジュールは、都度配布する。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 主要テーマ 1：基本感情
- 3 回目 感情心理学の補足・展開 1
- 4 回目 発表 1：基本感情
- 5 回目 主要テーマ 2：CAD 三幅対仮説
- 6 回目 感情心理学の補足・展開 2
- 7 回目 発表 2：CAD 三幅対仮説
- 8 回目 主要テーマ 3：道徳基盤理論
- 9 回目 感情心理学の補足・展開 3
- 10 回目 発表 3：道徳基盤理論
- 11 回目 主要テーマ 4：コロナ問題
- 12 回目 感情心理学の補足・展開 4
- 13 回目 感情心理学の補足・展開 5
- 14 回目 発表 4：コロナ問題
- 15 回目 発表 5：コロナ問題

5. 成績評価方法：毎時間の小レポート(60%)*、期末レポート* (10%)、発表資料の提出と発表* (20%)、出席**と討議への参加(10%)

上記の合計得点を踏まえて総合的に評価する。

*毎時間の小レポート・期末レポート・発表資料の提出と発表については、もれなく提出・実施した者のみ単位認定対象とする。

**2/3 以上出席した者のみ単位認定対象とする。

6. 教科書および参考書：資料は Classroom 経由で提示する。大学アドレスへのメールを頻繁に確認すること。

7. 授業時間外学習：論文(和・英)を読み、要約し、プレゼン資料をまとめ、授業中に発表してもらうので、授業準備には相応の手間がかかる。しっかりと準備して授業に臨んで欲しい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

発表資料等、全ての提出物は受講生全員で共有して、互いに参考にする場合がある。これを前提に作成すること。

発表は自分自身のコンピュータを使って、パワーポイントの資料を投影する。

なお、講義室のプロジェクタは VGA (D-sub15pin) もしくは HDMI 端子なので、変換端子を用意すること。

発表以外の時もコンピュータ持参のこと。

科目名：実験心理学演習Ⅲ

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：坂井 信之

コード：LB53309, 科目ナンバリング：LHM-PSY320J, 使用言語：日本語・英語

1. 授業題目：神経・生理心理学の文献研究

2・授業の目的と概要：この授業では最初に与えられた文献（専門書）を輪読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。

3. 学習の到達目標：① 心理学の知識をどのように応用すれば、人間の日常行動を理解し、諸問題を解決できるかについて、自分で考えることができる能力を身につけることができるようになる。
② 自分でまとめたことや自分の考えを他人にわかりやすく伝えることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

最初に与えられた英語の専門書（具体的な書物名は授業初回に案内する）を講読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。

第 1 回 導入（講義の進め方／担当決め）

第 2 回 プレゼンテーションの方法

第 3 回 文献講読その 1

第 4 回 文献講読その 2

第 5 回 文献講読その 3

第 6 回 文献講読その 4

第 7 回 文献講読その 5

第 8 回 文献講読その 6

第 9 回 文献講読その 7

第 10 回 文献講読その 8

第 11 回 文献紹介その 1

第 12 回 文献紹介その 2

第 13 回 文献紹介その 3

第 14 回 文献紹介その 4

第 15 回 文献紹介その 5

5. 成績評価方法：（ ）筆記試験・（○）レポート[40%]・（ ）出席
（○）その他（発表態度）[60%]

6. 教科書および参考書：授業時に指示する。

7. 授業時間外学習：予め割り当てられた章について予習をして、パワーポイントを用いて発表できるように準備しておく必要がある。また、発表時の質疑等に基づいて、パワーポイントを改訂し、提出する必要がある。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

何か質問があれば、電子メール（nob_sakai@tohoku.ac.jp）で問い合わせるか、電子メールで予約をした上で、研究室に質問にくること。

この授業は原則として対面にて実施する。詳細は Classroom で通知する予定である。

科目名：実験心理学演習Ⅳ

曜日・講時：月曜 2 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：倉元 直樹

コード：LB61204, 科目ナンバリング：LHM-PSY321J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：心理測定の基礎

2・授業の目的と概要：量的方法論による心理学研究の方法論的基礎となる測定法の理論について基礎から学ぶ。古典的テスト理論 (Classical Test Theory) と項目反応理論 (Item Response Theory) を対比しながら、理念的な理解を深める。オーソドックスな輪講形式の演習スタイルを基本とするが、受講者の人数や希望によっては発展的な内容を加えたり、受講者が現在取り組んでいる研究を題材として取り交ぜる可能性も考慮する。時折、教科書の例題を基にレポートを課す可能性がある。英語論文の理解と執筆のために標準的な英語のテキストを選定しているが、受講者の希望によっては変更も可とする。

3. 学習の到達目標：心理学的測定論に基づく手法を使って実際に研究を行うためのデータ収集デザインを自力で構想することができるようになること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：対面授業

1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介) (1 コマ)
2. Classical Test Theory (True Scores and Error Variances, Reliability Coefficient and Estimation, Formulas for Estimating a Reliability Coefficient, Factors Affecting the Reliability Coefficient, Estimating the Standard Error of Measurement, Reliability of Difference Scores) (6～10 コマ)
3. Item Response Theory (Basic Concepts and Models, Ability and Item Parameter Estimation, Assessments of Model-Data Fit, The Ability Scale and Information Functions, Item Construction and Bias, Equating, CAT) (6～10 コマ)
(参加者の履修経験と準備状況によって、前半、後半のいずれに重点を置くかを決定する)
4. まとめ (1 コマ)

5. 成績評価方法：出席状況 [40%程度]・小テスト [20%程度]・発表及び討論参加 [60%程度]

6. 教科書および参考書：(1) Traub, R. E. (1994). Reliability for the Social Sciences: Theory and Applications, Sage, Thousand Oaks, CA. (2) Hambleton, R. K., Swaminathan, H. and Rogers, H. J. (1991). Fundamentals of Item Response Theory. Sage, Newbury Park, CA.

7. 授業時間外学習：担当者は教科書の該当部分を中心に発表準備を行い、レジュメとプレゼンテーションを作成する。担当者以外の参加者は事前に教科書の該当部分を予習することが求められる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

授業そのものは日本語で行うことを原則とする。

科目名：社会心理学演習 I

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：荒井 崇史

コード：LB64204, 科目ナンバリング：LHM-PSY322J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：犯罪・非行と心理学

2・授業の目的と概要：本授業の目的は、実証的な手法で実施された社会心理学並びに犯罪心理学の英文文献を多読することを通して、犯罪や非行に関連する心理学的な知識を深めることである。受講生は、事前に指定された英文文献を読むだけでなく、関連する資料を準備し、授業では発表と討論を行う。

3. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、以下の2点である。

- (1) 社会心理学並びに犯罪心理学の最新の研究に触れることで、犯罪・非行に関する心理学理論や知見への理解を深める。
- (2) 心理学の英文文献を読解する力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面で授業を実施します。授業にあたって、この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業の開始前に、必ず Google Classroom にアクセスし、クラスに参加してください。

1. 全体ガイダンス：授業の進め方の確認と担当の決定
2. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 1
3. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 2
4. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 3
5. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 4
6. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 5
7. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 6
8. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 7
9. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 8
10. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 9
11. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 10
12. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 11
13. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 12
14. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 13
15. 犯罪・非行に関する心理学的文献の発表と討論 14

5. 成績評価方法：発表・討論参加 (50%)

授業時間外学習・準備 (40%)

レポート (10%)

※やむを得ない事情（忌引き・病気等）で欠席した場合には、その根拠資料（診断書等）を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

6. 教科書および参考書：教科書は指定しない。発表論文は、以下の雑誌に過去5年以内に収録された論文に限る。

Journal of Personality and Social Psychology

Journal of Applied Social Psychology

Journal of Social Psychology

なお、発表論文については、事前に担当教員にメールにて送付すること。他受講生の発表論文は ISTU にて事前に受講生に配布するので、各自印刷等を行うこと。

7. 授業時間外学習：事前学習として、パワーポイントなどを使って、担当論文を他の履修者に説明できるように準備しておくこと。発表の担当者ではない授業の前にも、討議に積極的に参加するために、当該範囲の予習を行うこと。事後学習として、発表資料の改定を求める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

履修状況によって、授業形態や発表回数が増えることがある。初回の授業で授業形態や発表担当を調整するので、履修を希望する方は必ず出席すること。なお、学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：社会心理学演習Ⅱ

曜日・講時：金曜 2 限

semester：5 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LB55209, 科目ナンバリング：LHM-PSY323J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：コミュニティと社会行動

2・授業の目的と概要：この授業では、コミュニティ・文化・社会行動などに関する社会心理学の論文を読解する。それぞれの論文でとりあげられている主要な理論を理解するとともに、実際に研究を進める方法論（とくにフィールドワークと事例研究）を学ぶことが目的である。受講生は対面授業に出席するとともに、課題論文を読んでレポートを提出しなければならない。

3. 学習の到達目標：1. コミュニティ・文化・社会行動にかんする社会心理学関連の理論と研究の方法論（とくにフィールドワークと事例研究）を学ぶ。

2. 論文や文献を調べて的確に理解する力を涵養する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業とオンライン授業（オンデマンド型）を併用して実施する。

1. 導入：授業の進め方の説明

2. 地域社会と犯罪

3. 集団と社会的アイデンティティ

4. 伝統文化とその変容①

5. 伝統文化とその変容②

6. シャーマニズムとヘルスケア・システム

7. 多文化状況と発達

8. 文化間移動と民族的アイデンティティ

9. 互助集団①

10. 互助集団②

11. 抵抗と服従

12. 近代化と社会化過程

13. アクション・リサーチ

14. 事例研究の方法論

15. まとめ

5. 成績評価方法：毎回提出するレポートにより評価（100％）

6. 教科書および参考書：とりあげる論文を授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：とりあげる論文を精密に読解し、レポートにまとめる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

初回授業で、対面授業とオンライン授業（オンデマンド型）の併用について説明します。

上に示した授業計画はおおよその予定であり、授業進行に応じて調整をすることがあります。

レポートは対面授業での学習内容を踏まえて作成すること

科目名：心理学特殊実験 I

曜日・講時：火曜 3 限、火曜 4 限

semester：5 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘、阿部 恒之、坂井 信之、荒井 崇史、河地 庸介

コード：LB52307, 科目ナンバリング：LHM-PSY324J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：心理学特殊実験 I

2・授業の目的と概要：心理学実験，心理学研究法，その他の心理学関連の授業で習得した実験・調査の技法に関する知識をもとに，受講生自身が教員の指導のもとに研究テーマと計画を立案し，実験や調査を行い，データの収集と分析を試みる。卒業論文研究に進むうえで重要な授業である。

3. 学習の到達目標：心理学の実験や調査の方法を実践的に修得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 研究テーマの選定 1
3. 研究テーマの選定 2
4. 文献の検討 1
5. 文献の検討 2
6. 研究計画の立案 1
7. 研究計画の立案 2
8. 実験・調査の実施 1
9. 実験・調査の実施 2
10. 実験・調査の実施 3
11. 実験・調査の実施 4
12. データの分析 1
13. データの分析 2
14. レポート作成 1
15. レポート作成 2

5. 成績評価方法：出席 (30%)、レポート (70%)

6. 教科書および参考書：授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：授業時に文献検討や実験・調査について指示を出すので、指定の期日までに行うこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

心理学専修の学生は必ず履修してください (履修できるのは、原則として心理学専修の学生に限ります)。次semesterの心理学特殊実験 II と連続履修してください。なお上記の授業計画はおおよその目安であり、教員の指示のもとに研究を進めること。

科目名：心理学特殊実験Ⅱ

曜日・講時：火曜 3 限、火曜 4 限

semester：6 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘、阿部 恒之、坂井 信之、荒井 崇史、河地 庸介

コード：LB62303, **科目ナンバリング：**LHM-PSY325J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：心理学特殊実験Ⅱ

2・授業の目的と概要：心理学実験，心理学研究法，その他の心理学関連の授業で習得した実験・調査の技法に関する知識をもとに，受講生自身が教員の指導のもとに研究テーマと計画を立案し，実験や調査を行い，データの収集と分析を試みる。卒業論文研究に進むうえで重要な授業である。

3. 学習の到達目標：心理学の実験・調査の方法を実践的に修得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 研究テーマの選定 1
3. 研究テーマの選定 2
4. 文献の検討 1
5. 文献の検討 2
6. 研究計画の立案 1
7. 研究計画の立案 2
8. 実験・調査の実施 1
9. 実験・調査の実施 2
10. 実験・調査の実施 3
11. 実験・調査の実施 4
12. データの分析 1
13. データの分析 2
14. レポート作成 1
15. レポート作成 2

5. 成績評価方法：出席（30%）、レポート（70%）

6. 教科書および参考書：授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：授業時に文献検討や実験・調査について指示を出すので、指定の期日までに行うこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

心理学専修の学生は必ず履修してください（履修できるのは、原則として心理学専修の学生に限ります）。前semesterの心理学特殊実験Ⅰと連続履修してください。なお上記の授業計画はおおよその目安であり、教員の指示のもとに研究を進めること。